

順天堂大学練馬病院外科だより

リハビリテーション科：言語聴覚士の仕事

リハビリテーション科には現在38名のスタッフがおり、内3名が言語聴覚士としてリハビリを行っています。

言語聴覚士の仕事は「話す」、「聴く」、「食べる」の機能に困難を抱える乳幼児から高齢者まで、幅広い対象者に専門的な検査・評価に基づいたリハビリ(訓練・指導・助言)を行い、生活の質(QOL)向上を支援することです。当院では特に嚥下機能の評価や訓練の依頼が多く、その中には脳の障害だけではなく、**オーラルフレイル**(歯・口の機能の虚弱)や**老嚥**(加齢による嚥下機能の低下・口腔乾燥や反射の低下)による嚥下障害も少なくありません。こうした障害から低栄養となり全身のフレイルやサルコペニアとなってしまうこともあります。日々、嚥下体操やたくさん会話をすることで、オーラルフレイルの予防ができます。またセラピストが行う口腔内の観察・嚥下運動の評価以外に、週1回嚥下造影検査で嚥下機能の評価し、食事形態や摂取時の姿勢、今後の訓練方法について検討を行っています。



“なるべく口から食べていただきたい！”そんな思いで日々、リハビリを行なっています。

リハビリテーション科：言語聴覚士 鞍貫亜由美

小児外科：保存的治療と低侵襲治療

小児外科と聞くと「手術で治す」というイメージを持たれる方が多いかもしれません。しかし当院では、手術だけでなく保存的治療にも力を入れています。代表的なものとして**臍ヘルニアに対する綿球圧迫療法**や、**包茎に対するいわゆるムキムキ体操**があります。いずれも早期に介入することでより高い確率で改善を見込めるため、お困りの患者様がいらっしゃいましたらご紹介お待ちしております。



手術においても**鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術(LPEC法)**、**膀胱尿管逆流に対する膀胱鏡下逆流防止術(STING法)**など腹腔鏡・ロボット手術を含め、なるべくお子様・保護者様の負担が軽くなるよう低侵襲での手術を心掛け、小児科・新生児科と連携し安全な医療を提供しておりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

小児外科：長廻優輝